

韓国都市集合住宅における居住者の洗濯慣習の実態と 洗濯関連空間の検討

奈良女大生活環境 ○任喜敬 今井範子

【目的】本研究は、韓国の都市集合住宅の居住者を対象とし、住戸内において洗濯行為がどのように行われているか、洗濯慣習の実態を明らかにし、それと同時に洗濯機置き場として計画されている多用途室（タヨンドシル）を含め洗濯関連空間の現状と問題点を明らかにすることが目的である。

【方法】韓国の4大都市の一つである地方主要都市，光州直轄市に最近建設された（1989～1992年）民間分譲集合住宅を選定，主婦を対象とした質問紙調査（写真記録を並行）を行った．調査期間は，1994年 8月25日～9月 3日．有効サンプル数335 ．

【結果】洗濯機所有（99%）の家が殆どである．洗濯物は天日で乾燥する要求が強く，乾燥機は殆ど普及していないのが現状である．洗濯頻度は毎日1回程度が多い．洗濯時間帯は午前中が多い．また妻の職業有無別，家族人数別に洗濯習慣に違いがみられた．汚れ物は下洗いする家が多い．ワイシャツ，靴下，下着類等は手洗いする家が多く，手洗いする習慣が残っている．洗濯機置場は多用途室が最も多く，洗濯空間として多用途室の利用が確認された．多用途室に対する居住者の不満は狭いという不満が多く，また洗濯槽に対する要求が強く，多用途室における洗濯槽の設置が示唆される．洗濯物の干し場は前バルコニーを，たたむ場所はコシルを，収納方式は各自の部屋に分散して収納する家が多い．このように洗濯行為を行う場所がまとめられていないことから，洗濯物が住戸全体を移動することによる不便・不都合がうかがえる．洗濯の共同化に対する意識をみた結果，否定的な家が多く，個々の家で洗濯機をもつという洗濯の個別化への意識が高いことが認められる．